

「いざっ!」というときに備えて
自分たちのまちは自分たちで守る
地域で取り組む自主防災会の活動

阪神・淡路大震災の教訓を生かして、地域でも「自分たちのまちは自分たちで守る」という機運が高まっています。現在、自主防災会の結成が進み町内の組織率は95・6パーセントにまで向上し、ほぼ全域をカバーしています。
自主防災会は、災害時に効果的に活動できるよう、さまざまな訓練を行っていますので、その一部を紹介します。不測の事態に備え活動する自主防災会の活動に、あなたも参加しませんか。

大きな災害が発生したらみんなの力が必要

大地震などの災害が発生した場合、役場、消防署などの公共防災機関は、全力を挙げて災害応急活動を行います。道路の不通、火災の同時多発、水道管等ライフラインの寸断などの悪条件が重なり、すべての地域に対応することは困難です。
こんなとき、どうしたらよいでしょうか。自分たちのまちは自分で守る「自主防災」しかないのです。しかし、各自がバラバラに行動すると、かえって危険な場合もあります。
みんなが地域ぐるみで協力しあい、組織的に行動することにより、初めて一人ひとりの力が生き、より



心肺蘇生法の講習 (本荘県住自主防災会)

大きな力が発揮できるのです。ここに、自主防災会の必要性と重要性があります。

各自主防災会の取り組みから

- ・ 消火器、消火栓やバケツリレーによる初期消火訓練
- ・ 避難訓練や救出訓練
- ・ 炊き出し訓練
- ・ 年末の防火パトロール
- ・ 心肺蘇生法などの救命講習会
- ・ 防災倉庫資機材の点検
- ・ 地域内にある消火栓などの確認
- ・ 地域内の要支援者の確認
- ・ 災害時緊急対応マニュアル作成
- ・ 防災センターなどの見学・体験

家庭での防災対策を十分に

災害時に備え「非常持ち出し袋」を点検し、3日分程度の非常食の準備と避難場所の確認をしましょう。



消火器を実際に使った消火訓練 (土山駅前自主防災会)

蓮池小学校で地震防災訓練

阪神・淡路大震災から8年経過した1月22日(水)蓮池小学校で震度6弱の地震があり、火災も発生するという想定で防災訓練が行われました。

災害発生時には、学校施設は地域住民の避難場所として重要な位置づけがされています。

地震が発生したとして午後1時50分にサイレンが鳴らされ、児童たちは頭を保護し



三角巾で応急措置

に取り残されていると想定し、救助班により担架で搬出して応急手当が施されました。

さらに、校舎屋上から救助を求めるけが人が発見され、はしご車で救出しました。

次に、校舎から火災が発生したとして、自主防災会の方々によるバケツリレー、教員による屋内消火栓での初期消火活動、通報を受けて出動した消防ポンプ車による放水と迫真の訓練に、見学している児童たちも真剣なまなざしで見入っていました。

防災への誓い新たに消防出初め式

1月12日(日)午前10時から稲美町立天満東小学校で新年恒例の「平成15年消防出初め式」(加古郡消防協会主催)が行われ、播磨・稲美両町の消防団員ら関係者約480人が参加しました。

分列行進の後に式典が行われ、播磨町から永年にわたり消防活動に精励した消防団員13人、2分団が表彰されました。また、八木郡協会長から式辞があり、団員たちは災害に強い・火災のないまちづくりへの誓いを新たにしました。消防団員を募集していますので、あなたも参加しませんか。

なお、昨年1年間の播磨町の火災発生件数は22件で、負傷者7人、被害総額は1582万3千円にのぼりました。また、救急車の出動件数は、895件で、876人の搬送を行いました。

問い合わせ 住民課 (35)2363



屋外非常階段からすばやく避難

て机の下で、脚を持ち待機しました。

そして避難を指示する放送により、屋外非常階段なども使ってすばやく運動場に集合。

体育館でも、保護者の参加により三角巾の講習を行いました。

安全確保訓練では、1人の児童がけがをして校舎内



はしご車により屋上から救出